

(一般質問)

質問日	令和3年12月2日(木)		質問方式	分割方式			
質問順位	6	会派名	自由民主党浜松	議席番号	18	氏名	鈴木 幹夫
表題	質問内容						答弁者の職名
1 コミュニティ・スクールを核とした学校教育と地域の連携や協働の在り方について	<p>本市のコミュニティ・スクール(以下CS)の取組は平成28年度からスタートして6年目を迎え、3年後の令和6年度から市内全小・中学校区での実施を目指して取組を進めているところである。</p> <p>(1) 現在、学校内に核となる組織である学校運営協議会の設置を進め、CSの取組を拡大している。モデル校を中心としたこれまでの取組の成果と課題を伺う。また、地域学校協働活動との連携を踏まえ、CSの今後の展開を伺う。</p> <p>(2) 地域学校協働活動を推進するためのこれまでの取組とその成果を伺う。また、文部科学省は、CSと地域学校協働活動を一つの取組として推進すること、そのためには地域学校協働本部を整備することが有効であるとしている。そこで、地域学校協働本部を設置する考えはあるのか伺う。</p>						花井教育長 中村文化振興 担当部長
2 「キャリア教育元年」の取組について	<p>キャリア教育は、本市の将来を担う子供たちが、予測困難な時代にあっても夢と希望を持って人生を歩んでいける力を育成する重要なものであると感じ、これまで私はキャリア教育に関する質問を継続してきた。</p> <p>花井教育長は、本年4月の校長会議において、「推進教師」と「ガイドブック」という新たな取組を進めていく令和3年度は「キャリア教育元年」と述べて、キャリア教育のさらなる推進を目指している。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) キャリア教育実践モデル校におけるこれまでの取組と成果について伺う。</p> <p>(2) これまでの成果を踏まえ、今後の展望について伺う。</p>						花井教育長
3 「GIGAスクール元年」の取組について	<p>本市は教育の情報化を「はままつの教育」の3本柱の1つに掲げ、国のGIGAスクール構想を追い風に、学校現場へのハード面での整備が急展開で進められている。</p> <p>そうした中、本年度は利活用に向けて本格的にスタートを切った、いわゆる「GIGAスクール元年」となり、授業の在り方についても大きな変革期に突入したと言え、今後、本市としてもその効果が問われることになる。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 児童・生徒の利活用の状況を伺う。</p> <p>(2) 活用協力校32校の検証状況と、今後の活用について伺う。</p>						田中学校教育 部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
4 児童・生徒の問題行動について	<p>かつて生徒指導上の問題行動やいじめの認知件数は中学校に多かったが、小学校においても同様の案件が年々増加して低年齢化の傾向があり、対応に苦慮していると聞く。また、警察が介入したり、弁護士に相談したりする事例もあると聞く。教育委員会の報告から、小学校の問題行動のうち粗暴行為の占める割合が高く、非常に心配される。</p> <p>こうした問題に対応するために、学校だけでなく、外部から学校をサポートする体制が必要であると考えます。</p> <p>そこで、現在、本市では、小・中学校で発生したいじめや問題行動に対してどのようなサポートをしているのか、また、そのサポート体制の成果について伺う。</p>	田中学校教育部長
5 子供の健全育成をサポートする事業展開について	<p>かねてより「こども第一主義」を標榜してきた本市が、全ての子供たちが安心して過ごすことができ、前向きな気持ちで夢や希望を持つことができる社会を目指した2つの取組について伺う。</p> <p>(1)「はますくファイル」は、保護者と保健・医療・福祉・教育等の関係機関の人たちが、記録を元に子供の様子を理解しながら適切な関わり方を考え、サポートすることを可能にする、本市独自の優れた取組であると認識している。これまでの活用状況から分かってきた課題と、さらなる活用促進のための今後の取組について伺う。</p> <p>(2)今年度、新たに打ち出された「浜松市子ども・若者支援プラン・子どもの未来サポートプロジェクト（浜松市子どもの貧困対策計画）」の中で、施策3、施策7、施策8の中で掲げている「子どもの貧困対策コーディネーター事業」の具体的な活動内容について伺う。とりわけ施策7にある「子どもの貧困問題への気づきを促すツール」とは何か伺う。</p>	鈴木こども家庭部長
6 発達障害がある子供の医療へのつなぎについて	<p>発達障害が疑われたり、心のケアが必要だったりする子供たちが医療機関にかかるまでの初診待機については、本市のみならず全国的な課題である。</p> <p>初診待機時間を短縮し、スムーズに医療や支援機関につなぐために、医療にかかる前の相談機能の市全体のキャパシティを上げることが必要であると考えます。発達相談支援センター「ルピロ」や相談支援事業所「シグナル」、市内に5か所ある障がい者相談支援センター等、こうした施設の相談体制の機能強化や、子供や保護者が気軽に相談でき、幅広く受け入れられる新しい機能や場の創出が必要だと思うが、考えを伺う。また、現在の待機解消に向けた取組を伺う。</p>	山下健康福祉部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>7 本市の地球温暖化防止、環境保全に関する取組の称揚について</p>	<p>地球温暖化が進み、気象災害の激甚化が顕著になっている。私たちの子や孫、さらにその先の世代に向けて持続可能な社会を実現するためには、経済や社会の仕組み等を根本から変えていかなければならない。</p> <p>今、地球温暖化防止、地域環境の保全の取組は、国、県、市、そして企業にも市民にも求められている。これらを踏まえ、本市の取組について以下伺う。</p> <p>(1) CSR活動においても、こうした地球環境を保全する目的の活動があると思う。CSR活動をより活性化させるために、平成28年度以来続けられているCSR活動表彰によって、これまで積み上げられてきた成果を伺う。また、先日、受賞企業に対する市調達優遇制度の対象項目に追加されたことにより、今後期待されることを伺う。</p> <p>(2) 地球温暖化防止並びに地域の環境保全について、市民や地域に貢献している企業の活動を称揚し、その取組を拡大させるための制度は本市にあるのか、また、そうした取組を展開するつもりはないか伺う。</p>	<p>奥家市民部長</p> <p>藤田環境部長</p>
<p>8 浜松城公園内に建つ美術館としての魅力ある運営について</p>	<p>浜松城公園エリアは、旧元城小学校跡地の発掘調査により歴史的に価値の高い遺跡が数多く発見され、大河ドラマの放映に合わせて大河ドラマ館の建設も予定されており、歴史的価値や観光拠点としての魅力が大いに高まった。</p> <p>このエリアには、開館以来50年にわたって市民に親しまれてきた浜松市美術館があるが、観光拠点にもなり得る恵まれた立地を生かして、政令市にふさわしい、さらに魅力あふれるものにしていく必要があると考える。</p> <p>そこで、浜松城公園の価値が見直される中、浜松城等の他の施設とどのように連携し、美術館としての魅力を高めていくのか伺う。</p>	<p>中村文化振興担当部長</p>
<p>9 遠州灘海浜公園（篠原地区）周辺地域における地域活性化と浸水対策への取組について</p>	<p>遠州灘海浜公園整備が予定されている篠原地区を含む本市西部の遠州灘沿岸地域は、新たな魅力創出を起爆剤とした地域活性化と、地域の防災安全性のさらなる向上が喫緊の課題であり、遠州灘海浜公園整備に合わせた県営野球場、道の駅の建設等に大きな関心と期待が寄せられている。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 遠州灘海浜公園（篠原地区）の隣接地に道の駅を設置することで、地域産業の活性化、地場製品の販路拡大、消費活動の活性化、人流の増加等に伴う賑わいの創出等が図られ、大きな経済効果があると考えている。道の駅設置は野球場や公園の建設と合わせて一体感を持って進めるべきと考えるが、今後の展望を伺う。</p> <p>(2) 当該地域内を流れる篠原川は高低差が少なく、そこにつながる排水路や道路側溝の勾配も緩いため土砂等が</p>	<p>長田副市長</p> <p>高須土木部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>たまりやすい状況で、そこへ雑草や雑木が繁茂して、浸水発生の原因になっていると考えられる。</p> <p>令和元年7月の豪雨時の広い範囲での浸水以来、住民が心配する状況が続いているが、これを受けて、地域を流れる篠原川流域における浸水対策の取組の状況について伺う。</p>	